

令和 5 年 9 月 29 日現在

機関番号：12601  
研究種目：基盤研究(B) (一般)  
研究期間：2019～2022  
課題番号：19H01205  
研究課題名(和文) 芸術における「再制作」学の構築に向けて

研究課題名(英文) refabrication in art

研究代表者

長木 誠司 (Choki, Seiji)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：50292842

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,400,000円

研究成果の概要(和文)：芸術創作およびその公開・流通をめぐる、近年重大な議論を呼びつつある「再制作」という実践を対象とする本研究では、複製、修復、再現、復旧、解釈・再解釈等々、類似した概念や事象との連関・差異に着目し、「再制作」をめぐる問題を歴史的に跡づけたうえで、それが現代において喚起する問題の特性が明らかにされた。

造形・視覚芸術の分野でとりわけ問題化している「再制作」だが、人工知能の急速な発達は文学や音楽などにおいても現実化しており、造形芸術にとどまらない芸術分野の専門家を糾合し、また、デジタル技術や人工知能をめぐる哲学的議論も視野に収めることで、近い将来を先取りする「再制作」の総合的理論化が図られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「再制作」にまつわる技術発展がもたらした具体的問題を、これまでの学術的蓄積にもとづく歴史的パースペクティブから総合的に検討したうえで、近代芸術の根幹にあるオリジナリティという概念を、現代の「再制作」がどのように揺さぶるのかを解明し、理論化の糸口が探られた。

現在の芸術制作とその公開・流通・保存の現場で問題になっている事態に、その技術的側面からアプローチすることで、人文知と科学技術の架橋を図り、芸術の現場でのアクチュアルな問題解決に寄与した。また、デジタル技術や人工知能をめぐる哲学的議論も視野に収めることで、近い将来を先取りする「再制作」の総合的理論化への着実な足場を形成できた。

研究成果の概要(英文)：This study, which focuses on the practice of 'refabrication', which has been the subject of significant debate in recent years in relation to artistic creation and its publication and distribution, focuses on the linkages and differences with similar concepts and events such as reproduction, restoration, interpretation and reinterpretation, and traces the problems surrounding 'refabrication' historically, and then identifies the characteristics of the problems it evokes in the present day.

"Refabrication" has become a particular problem in the fine and visual arts, but the rapid development of artificial intelligence is also becoming a reality in literature, music and other fields. By bringing together experts from art fields beyond the plastic arts and also taking into account philosophical debates on digital technology and artificial intelligence, a comprehensive theorisation of 'refabrication' that anticipates the near future has been developed.

研究分野：音楽学、表象文化論

キーワード：再制作 芸術とテクノロジー

様 式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

## 1. 研究開始当初の背景

東京大学において、生協食堂に展示されていた宇佐美圭司の作品《きずな》(1977)が、建物改修時に廃棄されるという事態が生じた。この問題をめぐるシンポジウム「宇佐美圭司《きずな》から出発して」(於東京大学、2018年9月28日)を中心的に組織した共同研究者は、その際、適切な光源のもとでの全体写真が見つからない《きずな》の画像を、画像技術の専門家の協力を得て既存写真から再制作した。さらに、廃棄された作品自体の再制作も計画していた。この計画にともなう技術的問題を検討するとともに、事故で失われたオリジナルの再制作が引き起こす倫理的・法的問題を整理することをこの発端として、美術・造形芸術以外の分野の現在における「再制作」の問題を共同して研究しようとする本研究のプロジェクトが構想された。

## 2. 研究の目的

再制作にまつわる技術発展がもたらした具体的問題を、これまでの学術的蓄積にもとづく歴史的パースペクティブから検討したうえで、近代芸術の根幹にあるオリジナリティという概念を刷新する、再制作の総合的理論を構築することが本研究の目的である。本研究の独自性・創造性はおもに2点ある。①現在の芸術制作とその公開・流通・保存の現場で問題になっている事態に、その技術的側面からアプローチすることで、人文知と科学技術の架橋を図る。この架橋は、学際性の理念というよりは、芸術の現場でのアクチュアルな問題解決の必要にもとづくものである。②再制作は広義の造形・視覚芸術の分野でとりわけ問題化しているが、人工知能の急速な発達は、文学や音楽などにおいても、再制作が現実化してくことを予想させる。本研究では、造形芸術にとどまらない芸術分野の専門家を糾合し、また、デジタル技術や人工知能をめぐる哲学的議論も視野に収めることで、近い将来を先取りする再制作の総合的理論化を図る。

## 3. 研究の方法

現代の問題を歴史的パースペクティブから検討し、多様な芸術分野を越境する、という本研究の構想にしたがい、以下のようなサブテーマ班を年度ごとに設け、4年をかけて再制作の総合的理論化を目指した。各年度にはシンポジウムを開催する。全期間にわたって、研究代表者の長木が諸班を統括し、班相互の議論を主導する。

造形芸術における再制作の実践的問題：宇佐美圭司《きずな》のケーススタディ

文学における作者性の歴史的再検討①：写本・写字をめぐって

文学における作者性の歴史的再検討②：自動筆記から人工知能へ

複製技術理論の再検討

タイムベースト・メディア・アートの再制作

映画におけるセルフリメイク①：その理論的問題  
映画におけるセルフリメイク②：その政治的問題  
音楽における再制作とオリジナル概念  
建築・都市の再制作：保存と修復の対立を超えて  
アーカイヴの変容と再制作  
社会のポイエーシスとしての再制作  
ポストヒューマンと人間の「再制作」

造形芸術における再制作の実践的問題：宇佐美圭司《きずな》のケーススタディ

宇佐美圭司《きずな》の再制作が引き起こす倫理的・法的問題を整理した。これが本研究の第一歩であった。そして、この問題は最終年度に論文集でもあるカタログ出版という形で決着が付けられた。

文学における作者性の歴史的再検討①：写本・写字をめぐる

印刷術が確立する以前の時代の写本は、19世紀以降の文献学により、オリジナルを復元するための過渡的資料として扱われてきた。しかし20世紀末から、伝えられる写本の総体を作品として扱う「新しい文献学」が登場し、作者や作品のオリジナリティを前提とする近代文学とは異なる研究分野として注目されている。写本における書き換えがタブー視されず、いわば創作者と受容者が一体化していた時代から、近代文学・文献学が興った19世紀における写本や写字に対する見方（たとえばゴーゴリやメルヴィルの作品では写字生が重要な位置を占めている）への変化を検討し、作者性の歴史的変遷をめぐる議論に新たな光をあてた。

文学における作者性の歴史的再検討②：自動筆記から人工知能へ

20世紀のモダニズム文学は、創造を作者の意図から解放すべく、シュルレアリストによる自動筆記やダダイストによるコラージュなどの手法を生んだ。しかしこれらの手法は、実際には作者の完全な廃棄にはいたらず、無意識などの「人間性」を創造の根拠としていた。それに対し、現在試みられている人工知能による文学生産は、人間不在の創造に挑むものといえる。人工知能が人間を超える「シンギュラリティ（技術的特異点）」をめぐる議論も参照しつつ、人工知能による創作を、モダニズム以来の文学の動向の発展として位置づけ検討した。年度末に、予定されていた公開シンポジウムはコロナ禍のために実施できなかった。

複製技術理論の再検討

ベンヤミンが複製技術論を発表した際、再制作という営為は想定されていなかった。だが、アウラ、反復可能性、テクノロジーといったその主題系は、再制作の問題と深く関連している。また、ベンヤミンが複製芸術の代表とみなした映画も、その公開・流通・保存の過程で、字幕や吹替、フィルムの修復、音源のリマスターなど、複製を逸脱する変化をこうむる。さらに現代のデジタル技術は、視聴者も巻き込んだインタラクティブな再制作が急拡大するポスト・メディア状況を生みだした。再制作という観点から、複製技術理論を再検討した。

### タイムベースト・メディア・アートの再制作

タイムベースト・メディア・アートとは、ビデオ、スライド、フィルム、音声、コンピュータなどの技術に依拠し、時間的要素をもつ媒体を用いた美術を指す。タイムベースト・メディア・アートは、消耗品・有寿命部品を用いてつくられることも少なくなく、作品を動態保存するためには、作動しなくなった構成要素を交換する必要がある。これは、作品の構成要素を保存するという美術作品の保存に関する従来の考え方と対立するものであり、作品のオリジナリティの再考を促す再制作の一種である。再制作なしには失われてしまう作品の出現が、美術作品の保存全般をどのように変えていくのかが検討された。

### 映画におけるセルフリメイク①：その理論的問題

映画では古くから、ヴェーゲナー監督『ゴレム』(1915/1920)のように、過去の作品が同じ監督によってリメイクされる例がしばしばみられる。こうしたセルフリメイク映画は、他者によるリメイク以上に、創造性を欠いた「焼き直し」として批判されがちである。しかし、オリジナルをみずから反復・引用することで生まれる自己省察性と記号化には、再制作を創造行為として捉えようとする際の理論的問題が先鋭に現れている。セルフリメイクと再制作を結びつけることで、創造性を新たな枠組みで捉える理論構築への指針が検討された。

### 映画におけるセルフリメイク②：その政治的問題

近年、ハリウッドが英語圏以外からヒット作の版權を購入し、リメイクするケースが相次いでいるが、国境を超えたリメイクはセルフリメイクにおいてもみられた。1966-72年に6人の日本人監督が香港に招かれ31本もの作品を監督したが、そのうち井上梅次と中平康は、それぞれの代表作『嵐を呼ぶ男』(1957)と『狂った果実』(1956)をセルフリメイクしている。これらのケースは、同一監督によるだけに、国境を超えたリメイクが作品にもたらす差異をとりわけよく表す。受容のコンテクストの移動が再制作に与える影響を検討するとともに、リメイクが国境を超えてつくりだす集団的記憶の政治的効果を検証した。

### 音楽における再制作とオリジナル概念

ジョナサン・スターンの研究 *The Audible Past* (2002) が明らかにしたように、音楽ではほかの芸術分野に先駆けて再生産技術が発達した。この技術をあらためて「再制作」の脈絡に取り込むことが、20世紀後半の創作史のなかで課題となった。録音はつねに実演の再制作としてハイフィデリティを求めてきたし、リテイクやリマスタリングは、よりよき「オリジナル」を制作する再制作という逆説をなす。1980年代以降は、編集技術の向上とともにオリジナルの再編成が通常化し、2000年代に入ると、動画を含む無数の再制作作品がネット上で国や言語を越えたコミュニティを生み出している。オリジナル概念を無効化するようなこれらの再制作が、創造性の近代的なありかたをいかに変質させるかを検討した。

### 建築・都市の再制作：保存と修復の対立を超えて

建築、都市計画、デザインの領域において、再制作は保存や修復の問題に関わっている。

ラスキンは『建築の七燈』（1849）において、修復は「破壊よりもなお悪い」とし、すでにある建物を可能なかぎり元どおり保存することがそのオーセンティシティを保証すると考えた。この考えは当然、「廃墟」保護の傾向を示すことになる。それに対し、同時代のヴィオレ＝ル＝デュックは、修復は建物を「これまでになかったほど最高の状態で復元すること」であるとした。この対立は現在も解決をみておらず、2010年のヴェネツィア・ビエンナーレにおいても、「廃墟」か「修復」かという対立を解消する「統一場」理論の必要性が説かれた。単なる建物の復元ではなく、それをとりまく社会や人間関係のつくりなおしを含めた再制作という観点から、そんな「統一場」の構築を試みた。

#### アーカイヴの変容と再制作

最終年度もコロナ禍の影響から脱せず、シンポジウムは開催されなかったが、個のテーマに関しては検討された。芸術作品の再制作が興隆する背景には、テクノロジーを駆使してアーカイヴにあらゆるものを保存し、任意に「再生」可能にしようとする欲望が認められる。それは同時に不死性への信仰でもある。アーカイヴ化は、視聴覚のみならず触覚や嗅覚、いずれ味覚まで含めた多感覚に及びつつあり、その果てには、ある人物の生まるごとの保存というヴィジョンが待っている。ボリス・グロイスのライフ・ドキュメンテーション論などを参照しつつ、再生や不死性への欲望という視点から、再制作について理論的に考察した。また大学内でのアーカイヴ設置に関して、具体的な案が検討された。

#### 社会のポイエーシスとしての再制作

カントーロヴィチの古典的研究『芸術家の主権』（1961）が示唆するように、制度の実践もまたテキスト生産に関わる技芸（ars）という側面を持つ。本来は神学に由来するテキストを、編纂と註釈という方法によりながら法テキストとして「再制作」した中世教会法の営為は、その顕著な現象のひとつである。ピエール・ルジャンドルはこれを敷衍して、社会一般を「主体なきテキスト」のたえまない再生産と捉えた。これらの概念を検証しつつ、再制作の観点から、システム論的な社会のポイエーシス（ルーマン）について再考した。

#### ポストヒューマンと人間の「再制作」（韓、桑田、\*清水、竹峰）

「人間以後」をめぐる近年の理論では、人間がモノを制作するという従来の発想から、人間はみずからが制作したモノによりたえずつくりなおされているという発想へ、転換が図られている。テクノロジーの発達により生命体としての人類が「再制作」されるというこの考え方は、生殖の「自然」な担い手として再生産を担わされてきた女性の身体について、別様のありかたを再想像する契機にもなる。生殖に関わる技術発達をめぐる現代のフェミニズム科学論、身体論（ハラウェイ、ヘイルズ、シルドリックなど）に着目し、女性の身体がポストヒューマンの時代にいかに再想像・再制作されうるかを探求する。

#### 4. 研究成果

研究期間がコロナ禍にすっぽりと包み込まれる時期であったので、予定されていた国際シンポジウム等が開催できなかったのが悔やまれるが、最終年度には宇佐美啓司のカタログが研究成果たる論文集として出版された。

加治屋健司編「宇佐美圭司 よみがえる画家 記録集」（東京大学出版会）

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 長木誠司	4. 巻 69(9)
2. 論文標題 ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き(141) 「ヴィルヘルム・ブラーゲ」ができるまで(その1)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 レコード芸術	6. 最初と最後の頁 59-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長木誠司	4. 巻 69(10)
2. 論文標題 ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き(142) 「ヴィルヘルム・ブラーゲ」ができるまで(その2)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 レコード芸術	6. 最初と最後の頁 91-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中純	4. 巻 572
2. 論文標題 ウンブラル 歴史の闘としての謎	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 UP	6. 最初と最後の頁 36-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中純	4. 巻 575
2. 論文標題 イコノクラスムの彼方へ 像なき時代を創像する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 UP	6. 最初と最後の頁 47-5347-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中純	4. 巻 578
2. 論文標題 心理歴史的地図からイメージ記憶の散歩へ 『ムネモシュネ・アトラス』のアクチュアリティ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 UIP	6. 最初と最後の頁 43-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中純	4. 巻 581581
2. 論文標題 無の色気 ボウイ論の余白に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 UP	6. 最初と最後の頁 51-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 韓燕麗	4. 巻 2121
2. 論文標題 「戦争の記録とメロドラマ的快楽 戦時中の国策映画と新国劇における香港攻略」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『インテリジェンス』	6. 最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 韓燕麗	4. 巻 1
2. 論文標題 「アジア映画の味方 / 見方」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学アジア研究図書館ニュースレター	6. 最初と最後の頁 12-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 乗松亨平	4. 巻 49(1)
2. 論文標題 グローバリズムの外部より、地球の外部を想像するほうがたやすい: 「e-flux」とロシア宇宙主義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 165-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水晶子	4. 巻 2323
2. 論文標題 “Imported” Feminism and “Indigenous” Queerness: From Backlash to Transphobic Feminism in Transnational Japanese Context	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Gender Studies	6. 最初と最後の頁 89-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水晶子	4. 巻 75:10
2. 論文標題 居どころのないわたしたちの、此处ではない此处	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『群像』	6. 最初と最後の頁 249-256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長木誠司	4. 巻 68(5)
2. 論文標題 ディスク遊歩人: 音盤街そぞろ歩き(125)オペラのマルチカルチャ: 菅尾友の《トゥーランドット》とヴィトマンの《バビロン》	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 レコード芸術	6. 最初と最後の頁 59-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長木誠司	4. 巻 68(6)
2. 論文標題 ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き(126)オペラ：愛の壊れるとき(9)こびと,またはスペインの王女の誕生日	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 レコード芸術	6. 最初と最後の頁 91-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中純	4. 巻 560
2. 論文標題 それ(エス)の地下室(クリプト) ゲルハルト・リヒター《ビルケナウ》	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 UP	6. 最初と最後の頁 49-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中純	4. 巻 563
2. 論文標題 「絆する言語(エコラリアス)」の歌 デヴィッド・ボウイの作品における歯擦音と喃語をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 UP	6. 最初と最後の頁 41-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中純	4. 巻 566
2. 論文標題 夜の共同体へ パスカル・キニャールに	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 UIP	6. 最初と最後の頁 23-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中純	4. 巻 569
2. 論文標題 少年たち(ボーイズ)・兄弟たち(ブラザーズ)の秘密 デヴィッド・ボウイの共犯者たち	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 UP	6. 最初と最後の頁 49-54
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中純	4. 巻 48-3
2. 論文標題 デミウルゴスのかたり 磯崎新の土星(サトゥルヌス)的仮面劇	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 166-177
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 韓燕麗	4. 巻 3
2. 論文標題 中国語映画の『戦後』 女優李麗華とその主演作品を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア遊学 特集 移動するメディアとプロバガンダ	6. 最初と最後の頁 182-195
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加治屋健司	4. 巻 40
2. 論文標題 絵画化する装飾 カラーフィールド絵画とそのデザインの文脈	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 美術フォーラム21	6. 最初と最後の頁 74-80
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水晶子	4. 巻 15
2. 論文標題 From Backlash to Online Trans-exclusionism: Response to the lecture by Prof. Peto	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Gender and Sexuality: Journal of the Center for Gender Studies	6. 最初と最後の頁 59-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水晶子	4. 巻 1151
2. 論文標題 埋没した棘;現れないかもしれない複数性のクィア・ポリティクスのために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『思想』	6. 最初と最後の頁 35-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑田光平	4. 巻 5
2. 論文標題 「芸術家とモデルー ジェイムズ・ロードとジャック・デュパン」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『Art Trace Press』	6. 最初と最後の頁 212-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 10件）

1. 発表者名 長木誠司
2. 発表標題 デッサウ弦楽四重奏団と日本の作曲家
3. 学会等名 日本音楽学会第71回全国大会（武蔵野音楽大学）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 韓燕麗
2. 発表標題 「 貴戦期における日中映画の越境と協働をめぐる総合的研究」
3. 学会等名 早稲田大学20世紀メディア研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 韓燕麗
2. 発表標題 三、四十年代日人在港的觀影攝影活動
3. 学会等名 香港電影資料館開館20周年記念シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 韓燕麗
2. 発表標題 20 世紀中国史の資料的復元
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹峰義和
2. 発表標題 「偶然と事物の美学：クラカウアー『映画の理論』をめぐる」
3. 学会等名 北海道大学 映像・現代文化論学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 桑田光平
2. 発表標題 「パリに終わりはしないのか En quete d'une ville (都市を求めて / 都市の調査)」
3. 学会等名 オンライン・シンポジウム『テキストを建てる、イメージを歩く』
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長木誠司
2. 発表標題 "Japanische Oper in der Zeit der Akkulturation"
3. 学会等名 Universiaet der Kuenste Berlin Redeneitraege Musikwissenschaftliches Forschungskoloquium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長木誠司
2. 発表標題 Reception of the European contemporary music since 1990s in Japan
3. 学会等名 music from JAPAN 45th Anniversary Season festival 2020 New York (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 韓燕麗
2. 発表標題 第三の映画、第三世界の映画、第三世界主義の映画、第三世界美学
3. 学会等名 『支配と抵抗の映像文化』合評会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 韓燕麗
2. 発表標題 知られざる中国映画の発祥 上海映画の血沸き肉踊る歴史
3. 学会等名 『銀幕発光 中国映画の伝来と上海放映興業の展開』刊行記念会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 韓燕麗
2. 発表標題 「有容乃大 兼容并包 中国電影到新代的中國電影」(新中国電影から新時代の中国映画へ)
3. 学会等名 全球視野下的新中国電影七十年學術論壇(招待講演)(國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 乗松亨平
2. 発表標題 Friendship in "Dark Times": Ilya Kabakov and the Decontextualization of the Soviet Private Sphere
3. 学会等名 International Conference "The Dynamics of Cultural Processes between Center and Periphery" (招待講演)(國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水晶子
2. 発表標題 基調講演
3. 学会等名 フェミニスト/クィア・ユートピア&ディストピア：非規範的な欲望と身体を通して想像されるオルタナティブ・ワールド(國際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水晶子
2. 発表標題 From Backlash to 'LGBT' Movement and Beyond: The Moral Conservatives and Feminist/Queer Left Politics in Japan
3. 学会等名 ECPG2019 (Amsterdam University) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水晶子
2. 発表標題 LGBT Diversity and the Queering of Tokyo
3. 学会等名 Inagaki 11 Seminar (University of Melbourne) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水晶子
2. 発表標題 Imported Hatred?: Japan's Transphobic Feminism in Transnational Context
3. 学会等名 国際シンポジウム:トランスジェンダー が問うてきたこと (お茶の水大学) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水晶子
2. 発表標題 'Imported' Feminism and 'Indigenous' Queerness: From Backlash to Transphobic Feminism in Transnational Japanese Context
3. 学会等名 Consortium of Critical Theory Programs (UC Berkeley) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 桑田光平
2. 発表標題 On the Concept of Surface ; A Short Remark on Japanese Postmodernism in Literary Criticism
3. 学会等名 「World Literature as Japanese Literature」(NYU)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 ザビーネ・ヘンツェ?デーリング、ジークハルト・デーリング、長木 誠司	4. 発行年 2020年
2. 出版社 アルテスパブリッシング	5. 総ページ数 352
3. 書名 オペラがわかる101の質問	

1. 著者名 Yasuhiro Sakamoto, Felix Jaeger, Jun Tanaka (eds.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 De Gruyter	5. 総ページ数 160
3. 書名 Bilder Als Denkformen: Bildwissenschaftliche Dialoge Zwischen Japan Und Deutschland	

1. 著者名 田中 純	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 646
3. 書名 デヴィッド・ボウイ 無を歌った男	

1. 著者名 門林岳史、増田 展大	4. 発行年 2021年
2. 出版社 フィルムアート社	5. 総ページ数 295
3. 書名 クリティカル・ワード メディア論	

1. 著者名 横浜美術館 (監修), 愛知県美術館 (監修), 富山県美術館 (監修), 加治屋健司 (その他),	4. 発行年 2020年
2. 出版社 左右社	5. 総ページ数 328
3. 書名 トライアローグ 語らう20世紀アート	

1. 著者名 加治屋 健司 (編集)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 176
3. 書名 宇佐美圭司 よみがえる画家	

1. 著者名 伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 世界哲学史 8 現代 グローバル時代の知	5. 総ページ数 320
3. 書名 ちくま新書	

1. 著者名 横浜国立大学都市科学部（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 『都市科学事典』（うち項目「都市記号論 - - リンチからバルトへ」）	5. 総ページ数 1052
3. 書名 『都市科学事典』（うち項目「都市記号論 - - リンチからバルトへ」）	

1. 著者名 ジャン＝ピエール・デュピユイ（桑田光平ほか訳）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 318
3. 書名 『ありえないことが現実になるとき』	

1. 著者名 ハロルド・ローゼンバーグ（桑田光平ほか訳）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 305
3. 書名 『芸術の脱定義』	

1. 著者名 森元庸介	4. 発行年 2020年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 202
3. 書名 東京大学教養学部編『知のフィールドガイド 異なる声に耳を澄ませる』（「かわいらしければよいのか 十八世紀フランスから」を分担執筆）	

1. 著者名 久保田 慶一、白石 美雪、井上 郷子、森垣 桂一、池原 舞、伊東 信宏、梅本 実、小曾根 真、柿沼 敏江、今野 哲也、長木 誠司、土田 英介、長島 剛子、中田 朱美、福田 隆、安良岡 章夫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 アルテスパブリッシング	5. 総ページ数 292
3. 書名 楽譜でわかる20世紀音楽	

1. 著者名 渋谷哲也、夏目深雪、田中?純、森?達也、生井英考、田野大輔、高橋秀寿、四方田犬彦、野崎?歎、鴻?英良、古後奈緒子、杉原賢彦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 森話社	5. 総ページ数 328
3. 書名 ナチス映画論	

1. 著者名 三浦篤、加治屋健司、清水修	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学	5. 総ページ数 96
3. 書名 シンポジウム「宇佐美圭司《きずな》から出発して」全記録	

1. 著者名 伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 世界哲学史 8 ; 現代 グローバル時代の知	

1. 著者名 ユベール・ダミッシュ、松浦寿夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 336
3. 書名 カドミウム・イエローの窓	

1. 著者名 ジェラルド・マセ、桑田光平	4. 発行年 2019年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 320
3. 書名 つれづれ草	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田中 純  (tanaka jun)  (10251331)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授   (12601)	
研究分担者	韓 燕麗  (han yanli)  (10537096)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授   (12601)	
研究分担者	竹峰 義和  (takemine yoshikazu)  (20551609)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授   (12601)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	一條 麻美子  (ichijo mamiko)  (30213987)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授   (12601)	
研究分担者	清水 晶子  (shimizu akiko)  (40361589)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授   (12601)	
研究分担者	乗松 亨平  (norimatsu kyohei)  (40588711)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授   (12601)	
研究分担者	加治屋 健司  (kajiya kenji)  (70453214)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授   (12601)	
研究分担者	森元 庸介  (morimoto yosuke)  (70637066)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授   (12601)	
研究分担者	桑田 光平  (kuwada kohei)  (80570639)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授   (12601)	
研究分担者	林 少陽  (rin shoyo)  (20376578)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授   (12601)	削除：2019年10月7日

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 国際シンポジウム「フェミニスト/クィア・ユートピア&ディストピア：非規範的な欲望と身体を通して想像されるオルタナティブ・ワールド」	開催年 2021年～2021年
---	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------